

大学院教育学研究科教授

# 桑原 敏典



**KUWABARA Toshinori (46歳)**  
 ▶1967年 愛媛県温泉郡川内町(現東温市)生まれ  
 ▶1990年 広島大学教育学部 卒業  
 ▶1992年 広島大学大学院教育学研究科博士課程前期修了  
 教育学修士  
 神奈川県立豊田高等学校 教諭  
 ▶1995年 広島大学附属中学校・高等学校 教諭  
 ▶1997年 岡山大学教育学部 助手  
 ▶1999年 同学部 講師  
 ▶2001年 広島大学で文部科学省内地研究員として研究  
 (~2002年2月まで)  
 ▶2002年 教育学博士(広島大学)  
 ▶2003年 岡山大学教育学部 助教授  
 ▶2007年 岡山大学大学院教育学研究科 准教授  
 ▶2013年 同研究科 教授

「高度な知の創成と的確な知の継承」一。  
 岡山大学の理念のもとに教育・研究を展開する  
 個性あふれる教員たち。研究室を訪ねる。

研究室  
 訪問

## 社会科教育学の課題

「社会科は暗記中心の科目と考  
 えられがちですが、「いかに自分  
 で考えるよう促せるか」が長年  
 の課題」と話す桑原教授。ヒン  
 トを探すため、米国の社会科  
 教育を研究してきた。

米国では、多文化や価値多元  
 化を前提にした教育が行われ、  
 どの段階で何をどのように思考  
 し、判断させるかという教育課  
 程編成の研究が進んでいる。教  
 科書には単元ごとに「ルールが  
 なかったらどうなるのだろうか」  
 「なぜ政府が必要なのだろう」  
 「なぜリーダーがいるのだろ  
 う」など問い掛けが多く並  
 び、小学校から自  
 由や権利といった  
 抽象的な概念を具体  
 的な出来事に絡めて  
 考えさせている。こ  
 うした教育学は、日本  
 でも子どもが主体的に  
 考え、自主的に学ぶ教育を  
 拡充するのに参考になるとい  
 う。



桑原教授が研究する米国の教科書▶

## 新しい授業づくり

桑原教授は広島大学附属中学  
 校・高等学校の教員時代、ハン  
 セン病や水俣病を題材にした授  
 業を開発した。内容は、資料に  
 基づき問題の原因や理由を考え  
 させ、論争点を明確にし、どの

## 「何を取り上げ、どう教えるべきか」 日本の教育方法を考える

大学院教育学研究科の桑原敏典教授の専門は、社会科教育学。  
 小学校から高校までの社会科で、どんなテーマをどのように教えるか研究している。  
 目指すのは、自主的・自立的に判断し行動できる子どもの育成だ。



▶授業づくり研究の様子

ように問題解決するかを意思決  
 定させる—というもの。社会的  
 論争をテーマに取り上げ、授業  
 の中で対立点を浮き彫りにする  
 この取り組みは、当時の授業づ  
 くり研究では新しい試みだった。  
 現在の社会科教育学では、さま  
 ざまな価値観について議論し判  
 断した上で、子どもに合意を作っ  
 ていく手法などが焦点になって  
 おり、桑原教授の授業開発も進  
 化している。

## 現場で求められる教員とは

子どもが過去の出来事を自分  
 なりに捉え直して解釈すること  
 を目指す社会科教育には、社会  
 科を得意とする教員の養成が欠  
 かせない。「得意」とは、教員自  
 身が社会問題に関心を持ち、自  
 分で調査するなど実際の社会を  
 理解し、解決に向けた考えを  
 持っていることを指し、  
 指導技術が高いことだ  
 けを意味するのでは  
 ないという。

昨年5月、桑原  
 研究室のゼミ生ら  
 社会科教育学の学  
 生が中心となって  
 「ティーチイン岡  
 山」を始めた。こ  
 れは市民と社会問  
 題について意見交換  
 するもので、市民感覚

を授業づくりに生かすのが狙い。  
 桑原教授は取り組みを自主的に  
 進める学生たちにテーマ決定や  
 議論の進め方をアドバイスして  
 おり、「将来教員になった時、社会  
 情勢に合った題材を取り上げ、主  
 体的に授業をつくれるようになって  
 ほしい」と期待する。

## 教員養成に力

学校教育のしるべとなる学習  
 指導要領は、平成10年の改訂で、  
 自ら学び自ら考える力などの「生  
 きる力」の育成を基本的な狙いと  
 したものに大きく方向転換。子  
 どもの意欲を引き出し、伸ばす  
 教員の力がこれまで以上に問わ  
 れている。

「教員一人一人がしっかりした  
 『教育観』『授業観』『社会科観』  
 を持つことが重要」という桑原教  
 授は、教員養成研究の成果が伝  
 わりにくい現場教員に最新の情  
 報を伝えるため、他大学の研究  
 者と連携し、教員研修の改善に  
 も力を入れる。「ただ学習指導要  
 領に沿って教えるのではなく、目  
 の前の子どもたちにきちんと責  
 任を持って教えられる教員になっ  
 てほしい。そうすれば、多くの情  
 報を自分で判断し、行動できる  
 子どもが育つでしょう。将来を  
 担う子どもたちにより良い教育  
 を提供するため、教員養成にか  
 ける桑原教授の思いは熱い。